

## 22. 大腸の扁平腺腫の臨床病理学的特徴

味岡詠生・藤沼 澄夫  
若林 泰文・田口夕美子（新潟大学第一病理）  
渡辺 英伸

大腸の腫瘍性隆起性病変の中で有癌率が高いと言われる扁平隆起性病変の肉眼的特徴とその有癌率について検討した。

対象は外科的切除例に見られた1から30mmまでの同病変81病変で、大きさの平均が6.3mm、有癌率は18.5%であった。

81病変は次の3型に亜分類され、それぞれで有癌率に

差が認められた。1) 軽度 IIa 型の隆起で、表面に明らかな陥凹を持たないもの。62病変あり、大きさの平均は4.5mm、有癌率は3.2%。2) 軽度 IIa 型の隆起で、表面に明らかな陥凹を持つもの。5病変あり、大きさの平均は4.8mm、有癌率は40%。3) 中等度以上の IIa 型の隆起で表面に明らかな陥凹や粘膜崩れを伴わないもの。14病変あり、大きさの平均は15mm、有癌率は78.6%。

結語：大部分の同病変の有癌率は高くないが、小さくとも表面に陥凹を持つものと中等度以上の IIa 型のものには有癌率が高い。

## 訂 正

本誌100巻7号に掲載いたしました大原慎司論文付図(Ⅱ)の8,9が上下逆になっていましたので訂正いたします。